

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生徒の確かな学力の定着（知）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底 ・ICTの活用 ・国・都・区の学力調査の分析、 ・「学び合い」の継続 ・基礎・基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底を学校全体として取り組み、共通実践を行うことができた。 ・各教科において、ICT機器を活用し、授業改善を推進した。 ・学力向上校内委員会を8月29日に実施した。本校の特定課題について分析し、授業改善策を協議した。 ・新学習指導要領に向けてアクティブラーニングによる授業を通して主体的・協働的に課題解決できる能力の育成に取り組んだ。 ・補充学習教室の運営が軌道に乗っているが、教員と外部指導員との共通認識をさらに深めていく必要がある。 ・学習意欲を高めるために、学校支援本部と連携し、各種検定を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底を維持するために、全教員による共通理解・共通実践を続けていく。 ・5教科でデジタル教科書を活用し、ICTを活用した授業を推進する。平成29年2月8日にICT公開授業（道徳授業）を実施する。 ・区の学力調査の結果より、特に数学においては、ノートやワークを活用し、きめ細やかな指導の徹底と家庭学習の習慣を身に付けさせる必要がある。 ・研究主題である「学び合い」学習を継続する。アクティブラーニング等の指導方法の共通理解を図り、主体的・協働的に課題解決できる能力を育成していく。 ・教員と外部指導員との打ち合わせを綿密に行い、共通理解の下、実施していく。 ・各種検定の運営を学校支援本部だけでなく、教員やPTAと連携しながら運営することができた。今後も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方は努力してくださっていると思いますが生徒の授業規律に対する意識改革も必要だと思います。また、他者の目を入れることも効果的なのではないでしょうか。 ・保護者はICT機器を活用した授業を目にする機会が少なく教育調査の肯定率も低くなっていると思うので、ICT公開授業はとてよいアピールになると思います。 ・電子教科書やタブレットの活用などについても、その効用や配慮点について、公開授業などの中で、保護者や地域住民にも伝えてほしい。 ・新学習指導要領に向けて、アクティブラーニング等の指導方法の研修を実施する。 ・補充学習教室では、外部指導員の方に来ていただいている貴重な学習機会を生かせていない生徒が多いと思います。 ・補充学習教室の講師として、大学生をボランティアとして活用することも考える必要がある。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充学習教室の外部講師と教職員との連携をさらに深め、基礎・基本の定着を図る。数学・英語においては、習熟度別少人数指導を活用し、課題別学習・習熟度別学習に取り組み、個に応じた指導を推進し学力向上を図る。また、全校体制でデジタル教科書等を活用したICTを活用した授業を推進し、年3回公開授業を実施する。 ・継続して授業規律の確立と新学習指導要領に向けてアクティブラーニング等の「学び合い」の授業を実践する。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
健やかな体と心身の調和のとれた人間育成(体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の定着 ・ 防災・安全教育の推進 ・ 体力の増進 ・ 食育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の特設課題調査の結果より、「毎日、朝食を食べている」の質問に対して肯定率が区の平均と比べると2.8ポイント高くなっている。 ・ 区の特設課題調査の結果より、「早寝早起きなど、規則正しい生活を心がけている」の質問に対して肯定率が区の平均と比べると5.1ポイント高くなっている。 ・ 今年度も引き取り訓練と震災救援所訓練を同時に実施した。また、1学年の全生徒が震災救援所訓練に参加した。 ・ 保健体育を中心に、5分間走を継続し、持久力を高めた。 ・ 食育担当や栄養士を中心に、学習成果を給食メニューに反映させ、生徒自身が健康・食について考える機会を多くもつことができた。 ・ 外部講師による講演を行い、食習慣について、考えさせることができた。 ・ 区の特設課題調査の結果より、「食事をするとき、栄養のバランスを考えている」の質問に対して肯定率が区の平均と比べると3.1ポイント高くなっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校から多くの情報(生活意識調査等の結果)を発信し保護者と連携しながら、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・ 来年度以降も1学年の生徒全員を震災救援所訓練に参加させ、地域と連携した防災・安全教育の推進を図る。 ・ 都の体力調査の結果より、持久力の向上が見られ、今後も継続していく。 ・ 都の体力調査の結果を学校便り等で情報発信し、保護者等の協力を得られるようにする。 ・ 学年ごとの計画的な実施が機能しているが、さらに充実した内容を検討していく。 ・ 外部講師の変更もあったが、特に課題はなかった。来年度も継続できるようにする。 ・ 今年度も一学年で「食生活や生活習慣病について考える」をテーマに食育学習を各クラスごとに実施した。来年度も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の生徒は、早寝早起きなど基本的な生活習慣が定着している生徒の割合が高い。今後も保護者と連携しながら継続できるようにする。 ・ 中学生レスキュー隊と連携できるようにしていく必要がある。 ・ 災害米のバック詰めなどを実際に体験してみることで、いざ震災というときに役に立つと思います。1年生の全員参加はとてもよい仕組みだと思います。 ・ 家庭科の授業の宿題で、家庭でのおせち料理を紹介するなどの取組は、今後も継続してもらいたい。 ・ 栄養バランスの必要性について、保護者に啓発(PTA便りや学校保健委員会等)していくことも大切である。 ・ 学校が行っているアレルギー対応についても、定期的に保護者へ周知することが必要である。 ・ 家庭事情も含めた個別な食生活への配慮も必要な時代となっている。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校から、多くの情報(生活意識調査等の結果)を発信し保護者と連携しながら、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・ 都の体力調査の結果より、持久力の向上が見られることから、保健体育を中心に5分間走を継続する。また、部活動加入率を高めるようにする。 ・ 学校保健委員会やPTA主催の給食試食会を充実させ、食育についての情報を家庭に伝え、保護者と連携した基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・ 中学生レスキュー隊を活用しながら来年度以降も1学年の生徒全員を震災救援所訓練に参加させ、地域と連携した防災・安全教育の推進を図る。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
豊かな心を育む教育活動(徳)	・ 道徳教育の推進	・ 学校評価アンケートでは、保護者が64.8%、生徒は81.4%の肯定率である。教育調査では、保護者が60.4%、生徒は50.5%の肯定率であった。	B	・ 「特別の教科 道徳」に向けて道徳教育推進教師を中心に研修を深め、全校体制で道徳教育を推進する。	・ 保護者と連携をとりながら指導することが大事である。 ・ 道徳教育に関わる啓発的体験を本校のキャリア教育の実践の中などで生徒は体験しているが、更に計画的に様々な教育活動の中で計画的に実践できると良い。 ・ 生徒へのアンケートでいじめは確認されなかったと聞きましたが、いじめはしている方がそれと認識していないケースが多くまた中学生になるといじめられている方も恥ずかしさで言い出せないと聞きます。聞き取りを行うなどいろいろな方法でいじめ防止を徹底していただきたいと思えます。
	・ いじめ防止の取組	・ いじめ防止基本方針を策定し、全教員が他学年の生徒も含めて細かく目配りをし、いじめ等の早期発見と的確な対応をした。		・ 学校全体での情報共有と指導方針の確認と徹底を図る。特にいじめは人権侵害であり、学校全体でいじめ問題に対する取り組みをさらに深めていく。	・ 学校でのルール（携帯・スマホの持ち込み禁止）があるため、SNSで起きたトラブルが早期発見につながらないことがある。 ・ 早期発見・早期対応のためには、学校だけでなく保護者の協力も必要である。
	・ 人権教育	人権教育ポスターの掲示、人権週間を活用し、校長講話を実施した。		・ 人権教育プログラムやいじめ防止教育プログラムを活用し、人権教育の計画的な推進を図り、自他の生命を大切にすることの指導を徹底して行う。	・ 中学校は教科担任制のため、子ども達の様子の変化に気が早い、学年を中心に情報を共有して対応することが大切である。
	・ 社会体験活動	・ 2泊3日のフレンドシップスクール等の宿泊体験学習や職場体験学習、社会体験活動を通して、道徳性を高めることができた。		今後、2泊3日のフレンドシップスクール等の宿泊体験学習や職場体験学習を継続していく。	・ 子ども達のコミュニケーションの取り方が昔と違ってきている。学校でもエンカウンター等の指導方法を取り入れることも必要ではないか。
	・ 生徒会活動	・ 地域行事へのボランティア活動において、参加人数のみならず、活動内容において顕著な取り組み姿勢の改善が見られた。「ふれあい運動会」の活動に対して青少年善行表彰の推薦をいただいた。		・ 生徒会活動を中心に、自治力の充実をさらにめざしていく。 ・ 多くの生徒がボランティア活動に参加することより、社会貢献の精神や地域社会で共に生きる力を育む。	
・ キャリア教育	・ 第2学年では、地域の事業所の全面的な協力の下、職場体験活動を実施できた。学校評価アンケートではキャリア教育の生徒の肯定率が82.7%になっている。	・ 第1学年の職業調べ・校外学習と連携した職場訪問、第2学年の5日間の職場体験学習、第3学年では、上級学校訪問を系統的に実施し、望ましい職業観や勤労観を育む。			
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平成31年度の「特別の教科道徳」に向けて、道徳教育推進教師を中心に研修を深め、全校体制で道徳教育を推進する。さらに多くの生徒が地域ボランティア活動に参加するという利点を生かし、社会貢献の精神や地域社会で共に生きる道徳実践力を育む。 ・ 2泊3日のフレンドシップスクール等の宿泊体験学習や職場体験学習、社会体験活動を通して、道徳性を高める。 ・ 朝の「あいさつ運動」を生徒会が中心となり実施する。小中一貫教育も含め、杉一小・馬橋小とも連携して行うことができるようにする。また、杉森中SNSルールを作成し、携帯やスマホ等のトラブルを未然に防ぐことができるようにする。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュサマースクール（ESS） ・朝読書 ・土曜授業 ・小中一貫教育 ・伝統芸能鑑賞教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子セミナーハウスでの4年目の実施となったが、滞りなく実施できた。参加生徒の人数（30名程度）は、ほぼ例年と同じで、英語の学習意欲が高い生徒が参加した。外国人講師の選定を民間企業に依頼し、滞りなく行うことができ、意欲喚起を含めて充実した内容であった。 「言葉の教育」として、学年や国語科を中心に全校体制で朝の読書時間に各学級毎に書評を行い、表現力の向上に努めた。また、学校支援本部の協力の下、朝の語り聞かせを実施した。 ・国際社会に生きる社会人、「コスモポリタン」を目指し、コミュニケーションツールとしての英語の役割を身に付ける授業を実施した。 ・昨年度に引き続き、年間3回の小中合同研修会を行い、各校の実態把握と小中の教育カリキュラムの一貫化を図った。また、音楽で出前授業を実施した。 ・3年間で能・歌舞伎・落語の伝統芸能を体験させる。今年度は、歌舞伎の鑑賞を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企画運営に関するノウハウの蓄積が十分に行われているので、次年度以降も継続実施していく。次年度は英語科教員の異動が見込まれ、企画運営に関する引き継ぎを確実にしておくことが必要である。また、英語科の補助教員を活用し、宿泊ではなく日帰りの参加を継続していく。 ・書評に関しては、今年度の検証を踏まえ、内容も含めて検討する。 ・読み聞かせに関しては、各学年・学級でのローテーションをうまく組み、実施内容に偏りが無いよう工夫していく。 ・計6回の外部講師を招いた授業を実施した。オリンピック・パラリンピック教育も含めて継続していく。 ・小学生が中学校で体験する機会をさらに画策する。 ・学校便りやHPを通して、地域や保護者に周知する。 ・継続して杉馬通信を活用し、小中一貫教育について、保護者や地域に周知していく。 ・生徒会主催である朝のあいさつ運動を継続していく。 ・3年間で能・歌舞伎・落語の伝統芸能を体験させることを継続する。日本の伝統文化を学ぶオリンピック・パラリンピック教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色ある教育活動の一つとして継続できると良い。 ・英語科教員の負担が大きいため、改善策が必要である。 ・今後の小学校英語の実施を踏まえ、近隣の小学校とも連携しながら、英語科の補助教員の活用など必要となってくると思われる。区の予算措置も検討してもらいながら、小中連携の視点で英語教育の充実を進めていけると良い。 ・学校支援本部の協力の下、地域の方に朝の語り聞かせを行っているが、継続してもらいたい。（生徒にとって有意義な体験である）また、学校司書を活用した学校図書館の充実を今後も行っていく。 ・国際社会に生きる社会人「コスモポリタン2017」に向けて特色ある教育活動のプレゼンテーションを行った。予算措置がされると継続が可能となる。 ・伝統芸能鑑賞教室は、オリンピック・パラリンピックの内容と重なるため、今後も継続していく。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESSとALTを活用した土曜授業の国際理解教育を推進する。土曜授業では各クラスにALTを配置し、本校の特色ある教育活動とする。 ・年3回、小中各校で授業参観・研修を実施し、小中学校の系統性・連続性を生かした教育を推進する。また出前授業を増やせるようにする。 ・外部人材を活用した語り聞かせを継続し、書評発表については国語科と連携を図りながら内容も含めて検討する。 ・3年間で能・歌舞伎・落語の伝統芸能を体験させることを継続し、日本の伝統文化を学ぶオリンピック・パラリンピック教育を推進する。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
その他	・特別支援教育	・教育相談委員会を中心として、教員とＳＣの連携による個別指導・支援体制の充実を図った。また、職員会議・職員朝会等で学年間の情報伝達を密に行い、指導・支援体制の充実を図ることができた。	B	・個別の教育支援計画を作成し、学校と保護者が共通理解し、指導を継続できるようにする。 ・個別指導・相談体制は、特別支援教育コーディネーターを中心として、養護教諭・教員・ＳＣ・教育相談員の連携を図りながら推進する。	・中学校の特別支援教室の設置はどうなっているのか。（平成31年度までに整備していく計画である） ・保護者との連携（合理的配慮）も必要である。 ・従来よりの東京都の交流教育の成果など生かしながら、区の特別支援学校や特別支援学級との交流、専門家よりの助言など、本校の生徒や教員の研修・交流事業として生かしていけると良い。
	・健康、安全について	・養護教諭を中心として、組織的・計画的に健康・安全について推進することができた。「すこやか」の発行や学校保健委員会を行い、生徒の健康・安全について、一層の充実を図ることができた。		・養護教諭を中心として「すこやか」の発行や学校保健委員会を活用し、保護者にも情報を提供し、協力を得られるようにしていく。	
	・アレルギー対策	・アレルギー対策委員会を中心に学校生活管理指導表に基づいて定期的に保護者と面談を行うことができた。アレルギー事故が生じた場合に備え、教職員によるアレルギー事故対応のシミュレーションを実施した。		・アレルギー対策委員会を中心に学校生活管理指導表に基づいて定期的に保護者と面談を行っていく。エピペンを使用する生徒はいないが、今後に備え、教職員によるアレルギー事故対応のシミュレーションを継続する。	・エピペンを使用する生徒が入学する可能性もあるため、教職員の研修を必ず実施し、アレルギー事故が起らないようにすることが大切である。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心として、全教職員が、生徒一人一人の障害に応じた指導を推進する。また平成31年度の特別支援教室の設置に向けて、準備していく。 ・学校安全計画に基づいた、意図的・計画的な安全指導を、養護教諭が中心となり、全教職員・全教育課程において行う。 ・食物アレルギーをもつ生徒に対して、十分に配慮するとともに、全教職員が的確に対応できるようにする。エピペンを使用する生徒に対して情報を共有するとともに、アレルギー事故が起らないよう、教職員の研修を定期的実施する。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
<p>学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、学校支援本部、PTAとの連携を密にし、地域運営学校としての学校運営を推進 学校を地域に広く公開し、情報発信の充実 組織的・機能的な学校運営 家庭との協働 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果、地域運営学校としての保護者肯定率は66.5%、学校支援本部との連携に関しては81.5%と、概ね肯定的な評価である。 学校評価アンケートにおいて、学校の情報提供に対する肯定率は86.4%と高い数値である。教育方針や教育の重点を分かりやすく伝えているかという項目では、70.7%と若干低い数値となっている。 学校評価アンケートにおいて、「学校は、校長先生を中心に教職員が協力し合っている」という項目では62.6%と若干低い数値となっている。「教員は、教育活動に熱心に取り組んでいる」という項目では保護者が77.6%、生徒が80.5%となっている。 12月に1・2年生を対象に三者面談や二者面談を行い、保護者との連携を密にし、生徒理解に努めた。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、学校支援本部、PTAとの連携を密にしていく。 各種検定の運営を学校支援本部だけでなく、教員やPTAと連携しながら運営していく。 定期的に学校支援本部との打ち合わせを行う。 学校HPの内容充実および更新回数の増加により、学校評価アンケートで高い肯定率を得られたので、今後もより分かりやすい内容と回数の拡充を図っていく。 定期的な学校便り・学年便りの発行を通して、情報発信を行う。 今後も保護者会等で教育方針や教育の重点を示していく。 学年や分掌組織で、本校の課題を共通理解し改善策を検討させていく。 「学校は明るく、活気がある」という項目が保護者は87.6%、生徒が89.9%と肯定率が高く、今後も肯定率が上がるよう、教育活動の充実を図る。 12月に実施する面談を全学年、三者面談を実施するかどうか、今後検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会に PTA元役員、学校や学習塾の教員、地域の教育組織に関わる関係者などを加え、その力を結集しながらバランスの良い運営を図っていくとよい。 地域での子ども達の様子を知ることができるため、学校運営協議会の委員について地域運営学校なので、町会のどなたかに委員なってもらうと有り難い。 補充学習教室や土曜授業について、学校の各教科の教員と綿密な打ち合わせができると良い。 外部の方が学校の情報を得るには、ホームページは大切な手段であるため、今後も定期的に更新を行っていく必要がある。 学校運営協議会から地域やPTAに情報発信をしていくことも大切だと考える。年度当初より『たより』の発信など、計画的な対応が必要であった。 来年度は、12月に実施する三者面談を全学年で実施する予定である。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、学校支援本部とPTAとの連携を深め、共通理解を図りながら地域運営学校としての学校運営を推進する。 HP（更新回数の増加）や学校便りの工夫・改善を行い、教育活動の情報発信をより一層充実していく。 年に2回三者面談を実施するなど積極的に保護者との連携を図り、基本的な生活習慣と生徒理解の定着を図る。また、土曜日などに学校行事と授業公開を開催し、学校を地域に広く公開することで、地域との協働による生徒の健全育成を図る。 					